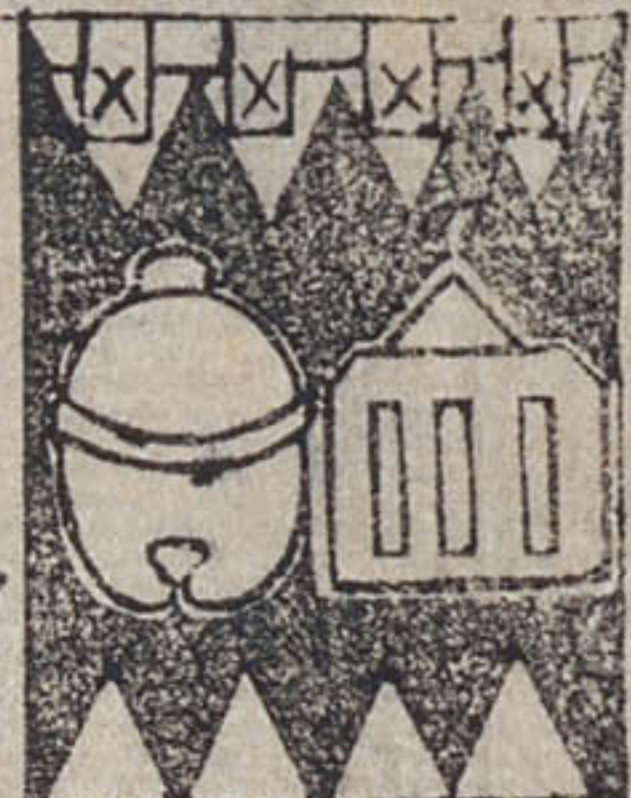


天保十年三月下旬



川東 大蔵
流四條

代金借書面之裳
希園雲長太極

万民の愁とくらふに 仁者の改

都々豊盛
昌

活もろい おどろきとどろき 此の字振

本序 雲上の舟上殿の内とゆかりた玉殿の青き

第三 武士の悪出立伊達として湯水の黄金

第四 花子の男代りやとらむくまの白妙

第五 相撲あのおどろきの能心見したまの御の玉歯

大切 蝶々道行
中京知良大前
振音飯酒郎

浄信屋	足本毛賀大夫	太被	田原右傳次郎
三味線	河波手門之助	大被	出番侍之助
長唄	飛出出蝶吉	小被	朝長良貞八
振哥	嶋岩岩宿次良	鉦	節季行當郎
三後	切と屋かせ丸	振附	鈴野はる子郎
狂言	浪花也丸	頭取	満討犀仙藏
作者	野村狐五郎		

且乃以毎晩出丈お入可
シ